

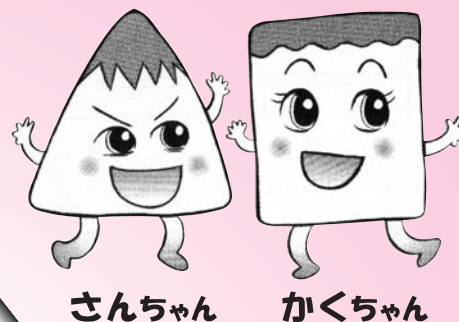
第10号

きたなごやし

男女共同参画情報紙

Vol. 10
2011. 2

とらい
あんぐる



さんちゃん

かくちゃん



児童館もちつき



保育園雪のプレゼント



チャレンジマラソン

男女共同参画ってなあに？

女性も男性もお互いを尊重しあい、ひとりの人間として自分らしく生きるために、性別による固定的な役割分担にとらわれることなく社会に積極的に参画していくことです。

2010
9/9

北名古屋市男女共同参画推進補助事業 男女共同参画セミナー 「ことばの発達のしくみ」

託児グループ「めばえ」主催

言語聴覚士の國島典子さんを講師に迎え、「ことばの発達～理解と助け合いから～」のテーマで講演がありました。

國島さんは「言葉を育てるためには、生活のリズムを整え、手遊びやお手伝いなどを通じてコミュニケーションを図ること、テレビは最小限にして屋外で体を使っていっぱい遊ぶことが大切。もちろんお父さんにも協力してもらうことも必要」と話されました。

《参加者の声》

子育て期に言葉掛けの大切さと、母親だけではなく父親の参加が大変重要なことを改めて感じました。



2010
10/24

「男女共同参画のつどい ～認めあい・助けあう 社会づくりをめざして～」

北名古屋市女性の会主催

公募していた男女共同参画川柳の作品発表、会員の寸劇によるDV啓発のためのペープサート(紙人形劇)が行われた後、社会学、女性学に詳しい山口佐和子さんを講師に迎え「家庭内暴力の防止について」のテーマで講演がありました。

山口さんは「DV夫の言い訳の定番は「愛しているから」。DVを防ぐには家庭内のコミュニケーションをうまくとることが肝要」と話されました。

《参加者の声》

夫と妻が認めあうこと、あらゆる面での感情のコントロールも大切なことだと気づかれました。



ひとりで悩まず、電話で相談しよう！

●北名古屋市役所 生涯学習課

☎0568(22)1111

男女共同参画を阻害する権利侵害について、相談委員が相談および処理・助言にあたります。

対 象 市内在住・在勤・在学の方(予約制) 相談委員 伴 麻里(弁護士)、三枝 優(大学教授)

●ウィルあいち

◎相談コーナー専用ダイヤル

☎052(962)2614

女性が直面する様々な悩みについて、女性相談員がともに受け止め、解決のための一歩をふみだす応援をしています。

火曜日～金曜日 午前9時～正午／午後0時45分～4時30分

土・日曜日 午前9時～正午／午後0時45分～4時00分

◎DV専門電話相談専用ダイヤル

☎052(962)2568

第1水曜日 午後2時～3時30分

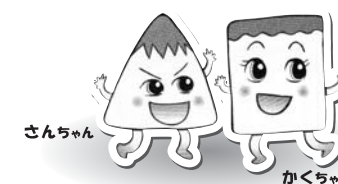
他週土曜日

●愛知県西枇杷島警察署

☎052(501)0110(代)

●DV相談ナビ(内閣府)

☎0570(0)55210(自動音声による案内)



さんちゃん

かくちゃん

編集協力 さんか・クラブ

イラスト えりちん

発行 北名古屋市教育委員会
生涯学習課 東庁舎2階

電話 0568-22-1111

FAX 0568-23-3150

Eメール shogai@city.kitanagoya.lg.jp

ホームページ http://www.city.kitanagoya.lg.jp/

平成23(2011)年2月発行

編集後記

今回は今話題の「イクメン」を取り上げてみました。

子育て中の妻が夫に言われる言葉で気になるのは「手伝おうか?」だそうです。一緒に子育てしたい気持ちの表れですね。何も協力しない夫よりはマシかなとも思いますが(苦笑)。

日本の男性の育児に関わる時間はアメリカやドイツと比べると3分の1だとか。まだまだ子育ては女性の役割なんではないか?

男性の育児休業取得を積極的に推進しているある企業では「多様な視点が持てる」「イノベーションにつながる」「地域交流が生まれ、仕事に対する効率度が上がる」などの効果が現れているといいます。

「家事・育児は女性」「仕事は男性」という固定観念を捨てた時、自分の中に新しい発見があるかもしれませんね。

(四)

もちつき



北名古屋市男女共同参画プラン **Check!!** 実施計画進捗状況チェック

チェック 重点目標「男女の社会参画の支援」

施策

「おやじの会の活動強化、父親のサークル等の設立・ネットワーク化促進等、活動支援」

「イクメン」に象徴されるひとつとして「おやじの会」活動があります。実施しているのは市内の小学校10校のうち6校。内容は「運動会やもちつきの手伝い」「エコキャップ運動」「親睦会」など様々です。また、学校行事やPTA活動に父親の積極的な参加を呼び掛けているとのこと。

今後も「おやじの会」の活動強化とネットワーク化を促進して、子育て世代の男性の参加・地域参画につなげていくことを望みます。

師勝小学校
「おやじの会」
会長経験談

「おやじの会」と「イクメン」

「男女共同参画」という言葉を耳にするようになって10数年過ぎ、わが子も小学生から成人になりました。

当時、小学校の入学式や授業参観での父親の姿は母親の1割ほど。学校・PTA行事では父親の参加を必要としていました。そんな背景の中で各地で「おやじの会」が誕生しました。学校教育に関心を持つようになり、子どもと一緒に遊んだり体験したり、「おやじたち」の経験話も聞くことができました。家庭においても家事に関わるきっかけにもなりました。

今の厳しい経済状況の中で、共働きをしながら子育てしていくには父親の協力は不可欠だと思います。

「イクメン」が「イクメン」になるおやじたちが増え、広がっていくことを楽しみにしています。



(目玉おやじ・清)

2010
10/1~2

「日本女性会議 2010 きょうと」参加報告

日本女性会議は、1984年に名古屋で第1回大会が開催され、今回で27回目を迎えました。本会議に参加させていただき、京都の歴史と文化を身近に感じ、とても心豊かで充実した楽しいひとときを過ごすことができました。

今後は会議で学んだことを生かし、一人ひとりが互いに「同じ大切な存在」であるとの認識を深め、価値観や個性の違いを認め合い、それぞれが持てる力全てを発揮できる社会の実現に向け、新たな一歩を踏み出したいと思います。

1日目の第1分科会では、固定的役割分担意識が国際的に見て高いという日本の現状から、女性の意識改革と男性リーダーが意識を変えることが重要であることを省みました。

2日目の全体会では、人々の意識を変えるためには、制度を変えること、新たな仕組みを作ることが重要であることを確認し、「ケア(家事、育児、介護)を行うことと、生活費を稼ぐことの両方について、男女がともに責任を持つことが重要である」という提言は、これからの男女共同参画推進のため不可欠なものだと感じました。

(太)



「イクメン」って知ってる？

「イクメン」とは、仕事だけではなく積極的に育児をする男性のこと。「イクメン」を転化させた言葉。子育てを楽しみ、自分自身も成長しようとする子育てパパのこと。

「イクメン」が増えることは、妻である女性の生き方や子どもたちの可能性が広がり、社会にとっても、家族にとっても、自分自身にとっても、心豊かな成長につながります。



「イクメンプロジェクト」厚生労働省の取り組み

一昨年、男性も子育てしやすい社会の実現に向けて「育児・介護休業法」が改正されました。新制度が昨年6月に施行され、同時に「イクメンプロジェクト」を発足させました。男性の育児休業を取りやすいように企業への広報を強化し、仕事と家庭が両立できる環境を整えようとするものです。

2010年度の男性の育児休業取得率はわずか1.72%です。2020年度には13%まで高めることを目標に掲げ「ワーク・ライフ・バランス」の実現に取り組んでいます。



【イクメンプロジェクトホームページ】
<http://www.ikumen-project.jp>

ある「イクメン」のつぶやき

(プロジェクトHPより抜粋)

職場のキャリア、ブランクなどを考えた時、ほんとうに育休を取る必要があるのかと葛藤しながら迎えた育休。妻は職場復帰で家には娘と私の2人っきり。育児は予定通り進まないことばかりで心身の消耗は予想以上。しかし、これを支えるのは「成長」という心躍る発見。育児とは疲れるけれど、こんなに楽しいものか。多くの発見に恵まれ、育休は仕事を休む価値のあるものと確信した。

「ワーク・ライフ・バランス」とは



「ワーク・ライフ・バランス」とは、「仕事と生活の調和」の意味で、国民一人ひとりが、やりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中・高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択、実現できる社会のことをいいます。(日本では仕事と育児の両立や多様な働き方の提供といった意味に使われることが多い) (山)

2010
10/30

パパのための子育て講座～パパも子育てを楽しもう～

講師の林陽子中部学院大学教授は、「イクメン」と「ワーク・ライフ・バランス」について説明した後、「サラリーマンパパの育児は楽しい」(中根治夫著)を参考に、自らの経験を交えて講演。母親の育児の大変さを知ることが夫婦間の思いやりにつながることに、育児に関わることで社会の問題点を知ることができること、さらには母親や子ども、自分の生活満足度の向上につながるなど、父親としての役割や、家族のコミュニケーションの大切さを話されました。

講演後は待っていた母親、子どもと合流し、父親ならではの体を使った遊びで子どもとスキンシップ。お父さんたちの優しい眼差しと子どもたちの嬉しそうな笑顔が印象的でした。

《参加者の声》

父親の育児の必要性を感じました。新しい遊び方も教えてもらえ、有意義な時間を過ごすことができました。

主催：北名古屋市児童課・健康課



ばあばのまごまご育児！

「ばあちゃん、いろにはおとこいろとおんないろがあるんだよ」
「へ～え、じゃあ、男色はどんないろ？」「え～とねえ、あおとかくろとかみどり」
「女色は？」「ももいろとね、それからあか」
「う～ん、そうしたら、黄色や水色はどうなるの？」
「・・・むずかしいなあ。もう、どっちでもいいことにしよう」
「そうだね。マーくんも赤いTシャツ着るし、ハルちゃんも黒いスカートはくでしょ。色に区別はないんだよ」
かくして今年1年生のわが孫は、きれいな水色のランドセルで毎日元気に登校しています(^^)

(大)

『おばあちゃんの子育て記』

